

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年2月調査結果

現在の景気の現状判断は、デフレなどの影響が薄れていることから、先月に比べ4.6%戻してD I値が24.4%と、非常に厳しい状況から脱する兆しが見える判断となっています。特に、家計動向関連の小売関連で8.8%上げて23.5%と非常に厳しい状況が緩和される結果となっています。

また、雇用関連でも10.7%と大幅に改善し、39.3%と厳しい状況から脱する兆しが見える現状判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断は、先月とほぼ同じで0.1%改善のD I値29.2%となり、内訳では小売関連で改善したものの、飲食観光関連で12.2%、サービス関連で3.6%悪化となり、雇用関連では、14.3%改善し50.0%と回復の兆しを示す現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断でも、先月より0.1%改善の33.3%で、サービス関連で8.4%戻したものの、飲食観光関連が5.8%下げ、非常に厳しい状況になっています。また、雇用関連は57.2%と回復傾向がさらに強まる結果となっています。

さらに3～6ヶ月前の景気の先行き判断は、先月に引続き7.4%改善を見込み42.9%になり、特に飲食観光関連では50.0%と大幅な改善を見込む結果となっています。

雇用関連は、先月と同じ46.4%でやや厳しい状況が続く予想となっています。

◎全体的には、消費の低迷、低価格志向や節約志向はあるものの、現状維持か改善傾向を示し、先行きについても改善傾向を示す見込みとなっています。

雇用関連は、回復傾向にありますが、先行きの不安がまだ少しあるものと思われます。

平成22年3月10日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は3月3日まで)

○有効回答率

93.3% 有効回答客体 42名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4		⇒	ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、デフレや円高などの影響が薄れていることから、先月に比べ4.6%ポイント上げてD I値が24.4%ポイントと、非常に厳しい状況から脱する兆しが見える判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連が8.8%ポイント上げて、23.5%ポイントに回復し、逆にサービス関連で4.8%ポイント下げて16.7%ポイントと悪化し、観光のオフシーズンの飲食観光関連はほぼ横ばいで、いずれも非常に厳しい状況が続く現状判断となっています。

また、雇用関連では、過去最高の39.3%ポイントと10.7%ポイントの大幅な改善を示し、厳しい状況から脱する兆しが見える現状判断となっています。

表1 2月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
家計動向関連	0.0	11.4	8.6	34.3	45.7	0.0	21.4
小売関連	0.0	18.8	6.2	25.0	50.0	0.0	23.5
飲食観光関連	0.0	7.7	7.7	46.1	38.5	0.0	21.2
サービス関連	0.0	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0	16.7
雇用関連	0.0	14.3	57.1	0.0	28.6	0.0	39.3

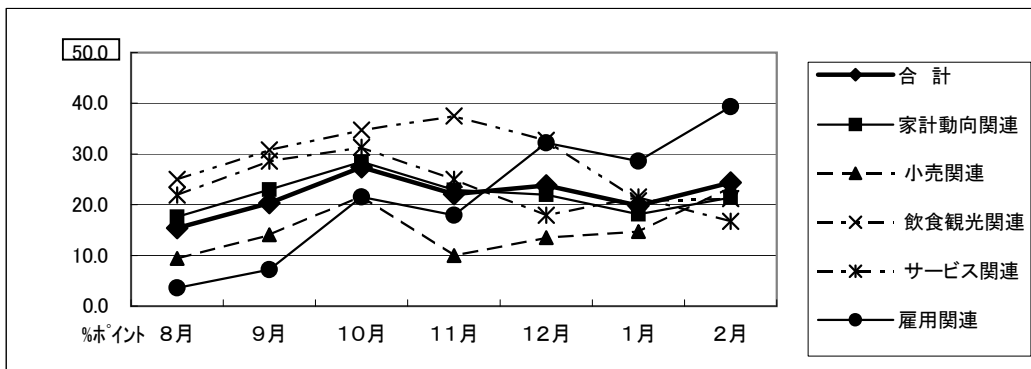
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	9	2.3	4.7	6.9	44.2	41.9	0.0	20.3
	10	0.0	7.0	27.9	32.6	32.5	0.0	27.4
	11	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	12	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
2010	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
	2	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
	(前月差)	(0.0)	(9.6)	(-4.2)	(-1.7)	(-3.7)	(0.0)	(4.6)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				2010年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	(前月差)
合計	20.3	27.4	22.1	23.8	19.8	24.4	(4.6)
家計動向関連	23.0	28.5	22.9	22.0	18.1	21.4	(3.3)
小売関連	14.1	21.7	10.0	13.5	14.7	23.5	(8.8)
飲食観光関連	30.8	34.7	37.5	32.7	20.8	21.2	(0.4)
サービス関連	28.6	31.3	25.0	17.9	21.5	16.7	(-4.8)
雇用関連	7.2	21.5	17.9	32.2	28.6	39.3	(10.7)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月とほぼ同じ29.2%と、厳しい状況が続く現状判断となっています。内訳では、小売関連で4.7%改善の28.2%と非常に厳しい状況から脱しましたが、飲食観光関連で12.2%、サービス関係も3.6%下げて、非常に厳しい状況へ逆戻りする結果となっています。また、雇用関連は14.3%と大幅に改善し50.0%と回復の兆しを示す現状判断となっています。

表1 2月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
家計動向関連	0.0	14.3	20.0	17.1	48.6	0.0	25.0
小売関連	0.0	18.8	18.7	18.8	43.7	0.0	28.2
飲食観光関連	0.0	7.7	23.1	15.4	53.8	0.0	21.2
サービス関連	0.0	16.7	16.6	16.7	50.0	0.0	25.0
雇用関連	0.0	57.1	14.3	0.0	28.6	0.0	50.0

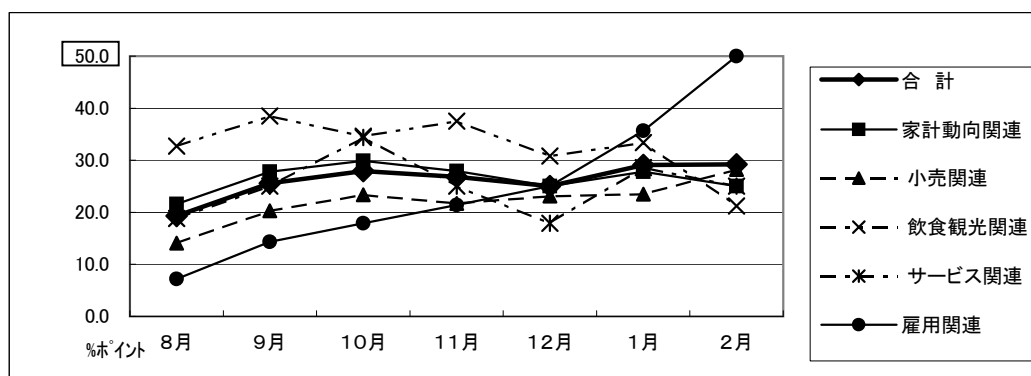
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	9	4.7	2.3	20.9	34.9	37.2	0.0	25.6
	10	0.0	7.0	27.9	34.9	30.2	0.0	27.9
	11	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	12	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
2010	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	2	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
	(前月差)	(0.0)	(12.1)	(-8.8)	(-13.6)	(12.6)	(-2.3)	(0.1)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				2010年		(前月差)
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
合計	25.6	27.9	26.8	25.0	29.1	29.2	(0.1)
家計動向関連	27.8	29.9	27.9	25.0	27.8	25.0	(-2.8)
小売関連	20.3	23.4	21.7	23.1	23.5	28.2	(4.7)
飲食観光関連	38.5	34.6	37.5	30.8	33.4	21.2	(-12.2)
サービス関連	25.0	34.4	25.0	17.9	28.6	25.0	(-3.6)
雇用関連	14.3	17.9	21.4	25.0	35.7	50.0	(14.3)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、ほぼ横ばいの先月より0.1%ポイント改善の33.3%ポイントで、悪化は止まりましたが厳しい状況が続く現状判断となっています。

内訳は、サービス関連が8.4%ポイント戻し33.4%ポイントに、小売関連は0.9%ポイント下げて34.4%ポイントと厳しい状況を示し、飲食観光関連が観光のオフシーズンのためさらに5.8%ポイント下げて19.2%ポイントと、非常に厳しい状況になっています。

また、雇用関連は、先月よりも7.2%ポイント改善し、57.2%ポイントと回復傾向がさらに強まる結果となっています。

表1 2月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
家計動向関連	0.0	5.7	34.3	28.6	31.4	0.0	28.6
小売関連	0.0	6.3	50.0	18.7	25.0	0.0	34.4
飲食観光関連	0.0	0.0	15.4	46.1	38.5	0.0	19.2
サービス関連	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	33.4
雇用関連	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	57.2

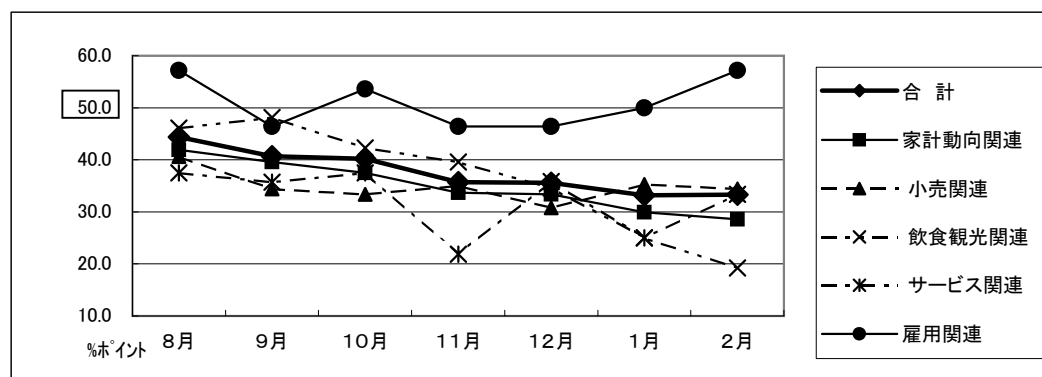
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2009	9	2.3	11.6	48.9	20.9	16.3	0.0	40.7
	10	2.4	9.3	46.5	30.2	11.6	0.0	40.2
	11	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	12	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
2010	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	2	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
	(前月差)	(0.0)	(4.8)	(-6.0)	(2.9)	(0.6)	(-2.3)	(0.1)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年				2010年		(前月差)
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
合計	40.7	40.2	35.7	35.6	33.2	33.3	(0.1)
家計動向関連	39.6	37.5	33.7	33.4	29.9	28.6	(-1.3)
小売関連	34.4	33.4	35.0	30.8	35.3	34.4	(-0.9)
飲食観光関連	48.1	42.3	39.6	34.6	25.0	19.2	(-5.8)
サービス関連	35.7	37.5	21.9	35.8	25.0	33.4	(8.4)
雇用関連	46.4	53.6	46.4	46.4	50.0	57.2	(7.2)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、安い物しか売れないなどから「お客様の様子」が43.8%と高く、続いて、来客数の減少とそれに伴う販売量の減少などの理由から「来客数の動き」と「販売量の動き」が37.5%となっています。

飲食観光関連でも、観光客の減少から「来客数の動き」が76.9%と先月と同じく、突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、来客数の減少から「来客数の動き」と、来店者の行動から「お客様の様子」が50.0%となっています。

次に、雇用関連では、有効求人倍率や求人状況から「求人数の動き」と求職者の減少から「求職者数の動き」、企業の景気状況などから「周辺企業の様子」がそれぞれ42.9%となっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	54.3	22.9	22.9	40.0	11.4	2.9
小売関連	37.5	37.5	25.0	43.8	25.0	6.3
飲食観光関連	76.9	15.4	23.1	30.8	0.0	0.0
サービス関連	50.0	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	42.9	42.9	14.3	14.3	42.9	14.3

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月と比べ7.4%ポイント上げて、42.9%ポイントと大幅な改善を見込む予想となっています。

内訳は、飲食観光関連が16.6%ポイントの大幅な改善を見込む、50.0%ポイントと春の観光シーズンに期待し、小売関連も8.2%ポイント上げて40.6%ポイントと改善を見込み、逆にサービス関連は、6.5%ポイント下げて29.2%ポイントと厳しい状況が続く予想となっています。

また、雇用関連では、先月と同じ46.4%ポイントでやや厳しい状況が続く予想となっています。

表1 2月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
家計動向関連	2.9	5.7	51.4	25.7	8.6	5.7	42.2
小売関連	0.0	0.0	62.5	25.0	6.3	6.2	40.6
飲食観光関連	7.7	15.4	46.1	15.4	7.7	7.7	50.0
サービス関連	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	29.2
雇用関連	0.0	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	46.4

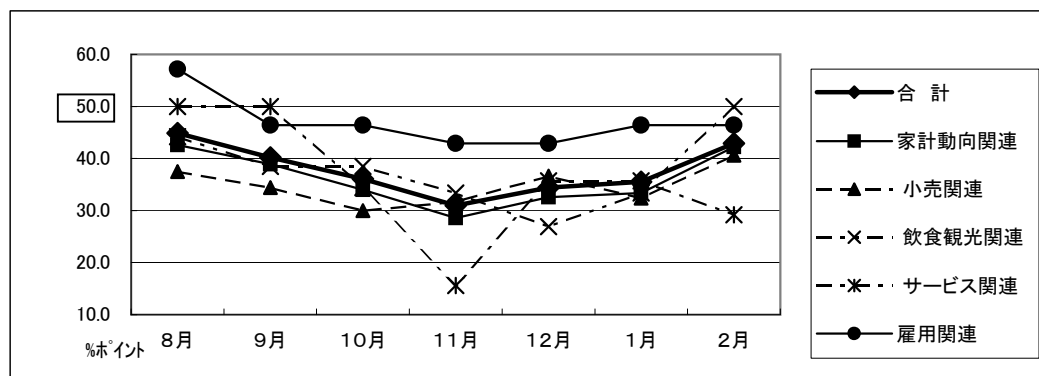
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	9	0.0	14.0	41.9	34.8	9.3	0.0	40.2
	10	0.0	7.0	46.5	30.2	16.3	0.0	36.1
	11	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	12	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
2010	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	2	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
	(前月差)	(0.1)	(2.4)	(8.2)	(0.6)	(-13.8)	(2.5)	(7.4)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年				2010年		(前月差)
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
合計	40.2	36.1	31.0	34.4	35.5	42.9	(7.4)
家計動向関連	38.9	34.0	28.6	32.6	33.4	42.2	(8.8)
小売関連	34.4	30.0	31.7	36.6	32.4	40.6	(8.2)
飲食観光関連	38.5	38.5	33.4	26.9	33.4	50.0	(16.6)
サービス関連	50.0	34.4	15.6	35.7	35.7	29.2	(-6.5)
雇用関連	46.4	46.4	42.9	42.9	46.4	46.4	(0.0)



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている	やや良くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・全般的に低迷感は続いています、ほしい物は買う購買意欲を感じる。
		変わらない	金融機関	お客様の様子	・企業の平日休日が少なくなって、やや残業がある話をお客様から聞きました、又、子供の進学等で金銭的には大変な面、前向きな様子が伺えました。
	変わらない	やや良くなっている	小売店	—	・個店の努力の結果。
			スーパー	—	・個店の努力の結果。
	変わらない	やや良くなっている	金融機関	お客様の様子	・製造業において、1年前は元請先の在庫調整の影響から、受注が半減以下となる取引先があり、その時期からすれば受注は回復している。
			小売店	来客数と販売量の動き	・平日の来客数の減少が見られ、販売量に影響が感じられる。
	変わらない	やや良くなっている	小売店	単価の動きとお客様、競争相手の様子	・飲食店、来店客の流れで感じます。
			スーパー	お客様の様子	・広告の品だけは、良く売れます。
	変わらない	やや良くなっている	ホテル	来客数の動き	・価格を下げても、動きが鈍い。
			小売店	販売量、単価の動きと競争相手の様子	・低価格商品の動きの方が良い。
	やや悪くなっている	やや悪くなっている	スーパー	来客数の動きとお客様の様子	・特売日でない日の店内の来客数が少ない。
			レストラン	来客数の動き	・2月初旬は積雪があり、来客数が伸び悩んだが、後半に客足が伸びた。新商品「そばラスク」の販売、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会のラベル商品の販売で話題性があった為、売上に寄与した。
	悪くなっている	悪くなっている	小売店	単価の動きと競争相手の様子	・景気よりも先行き不安の状態により、お金を使わない。単価の安い物しか売れない。他店のチラシを見ても安い物が多い。
			タクシー運転手	単価の動き	・どんどん乗客数が減る一方です。お得意様の利用も減っている。お得意様もこの景気の悪さで家計にひびいているので、タクシーの利用も控えている方もいる。
	やや悪くなっている	やや良くなっている	居酒屋	来客数の動き	・生ビールとしょうちゅうを毎日、300円にしたため、利益はうすいが、それなりに客は入ってくれた。
		変わらない	スナック	お客様の様子	・2月という事もあり、寒い夜は出る数が減る傾向にあると思います。40才～50才までのお客様が、減ったように思います。残業がなくなるときびしいのかもしれない。
	やや悪くなっている		やや悪くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き
		商店街関係者		来客数と販売量の動き	・通行人も少なく来店客も減少。
	やや悪くなっている	やや悪くなっている	道の駅	来客数の動き	・常連の名古屋圏のお客様も来店頻度が、やや少ない気がします。
			理容室	来客数の動き	—

		悪くなっている	小売店	単価の動き	・1人あたりの単価が特に少なくなっている。
			自動車販売	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・来客数が少ない。相見積ばかり。 ・昨年比(2月)で、3%マイナス(売上)
			旅館	来客数の動きとお客様の様子	・宿泊者数の激減。
			旅行代理店	来客数と単価の動き	・来店者の減少、旅行に行くと言われる方も、安い所をと言う方が増えている。
	悪くなっている	悪くなっている	商店街関係者	加盟店全体の売上	—
			商店街関係者	お客様の様子	・人通りの減少。
			小売店	来客数と販売量の動き	・来客数、販売単価とも低調。
			小売店	来客数、販売量の動きとお客様、競争相手の	—
			道の駅	販売量の動き	・入込数に対して、レジ通過率が低調。
			レストラン	来客数と単価の動き	・お客様の単価が下がり続けている。
			飲食店	来客数の動きとお客様の様子	・家族客の外出回数が減った。
			レストラン	お客様の様子	—
			旅館	来客数と単価の動き	—
			美容室	来客数と販売量の動き	・単価が低くなり、来店日数も伸びている。
			タクシー運転手	来客数の動き	・自家用車での迎えが増えている。
雇用 関 連	やや良くなっている	やや良くなっている	労働金庫	周辺企業の様子	・勤務調整が減少し、残業が増加している企業が多い。
		悪くなっている	自治体労働政策担当	求職者数、採用者数の動き	・有効求人倍率の推移 H21. 1⇒0.85 H21. 11⇒0.71 H22. 1⇒0.65
	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数、求職者数の動き	・雇用情勢が急激に悪化した1年前と比較すると、新規求職者は大幅に減少してきている。(1月、32%減)
			学校就職担当	雇用形態の様子と既卒者、中途採用したい企業が出てきた、1人紹介した。	・新卒就職希望者112名全員内定しました。既卒者、中途採用したい企業が出てきたので、一人紹介しました。ハローワークに出すといろんな人が応募するので、直接学校へ依頼がある場合がある。
			労働相談所	求職者数の動きと周辺企業の様子	・昨年3月の求職者2,020名に対し、12月が1,516名で約500名減少してきた、何らかの形で雇用された人が多くなったと判断できる。
		変わらない	人材派遣会社	求人数の動き	・ここ数ヶ月求人の動きは、ほぼ横バイ。(変化なし) 当分、正規・非正規とも改善の兆しなしと思われる。
	悪くなっている	学校就職担当	求人数の動きと周辺企業の様子	・新たな高卒者対象の求人が出ない状況が続いている。一般の求人も今一つ増えないようで、当面この状況が続くのではないかと。	

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	良くなる	観光案内所	・花の咲く時期になり例年ですと観光客が、増えてくる。
	やや良くなる	飲食店	・3月すぎになれば景気も上向きになるのでは。
		旅館	・春夏の来客の動きに期待する。多少予約も有り。
	変わらない	商店街関係者	・相当、景気が悪化しているため、これ以上悪くならないよう期待します。
		商店街関係者	・今が底だと思う。よくなると期待して、がんばるのみ。今の雰囲気だと、ここ当分はこのまま推移する気がする。
		商店街関係者	—
		小売店	・景気上昇に関するものが、見えてこない、感じられない。
		小売店	—
		小売店	—
		小売店	・前回と同じで良くなる材料がみあたらない。
		スーパー	・景気が良くなる気配がない為。
		スーパー	・トヨタ・日産などで、リコール問題がある。
		自動車販売	・エコカー補助金制度が、9月まで延長された事はいい材料にはなりますが、それがすぐ販売量に結び付くとは思えないので、変わらないように思います。
		道の駅	—
		道の駅	・単価は替らないと思うが、イベント等の実施で来客数を確保する予定だから。
		レストラン	・厳しい状況が続きますが、3月はレストランのメニュー変更等を行い集客対策により厳しい状況を打破します。
		レストラン	—
	スナック	・3月に入ると仕事がなくなるという方もみえます。でも、春になると来客数は、増えては来ると思います。	
	ホテル	・デフレが続きそうなので。	
	金融機関	・収入が減少しているのに、支出は変わらないため、景気が動く気配がない。	
理容室	—		
やや悪くなる	小売店	—	
	小売店	・昨年よりも買い替えが進んでいるような。政府対策のエコポイント、エコカー減税に集中的に消費がまわっているのかも。	
	小売店	—	
	スーパー	—	

		レストラン	・市内経済の冷え込みが、良くなると思えない。
		旅行代理店	・旅行申し込み者は、一向に増えない。
		金融機関	・金型業者においては、発注先の内製化や海外企業への委託等により製造経費の削減を行っており、受注の確保が難しくなっている。
		タクシー運転手	・季節的に歩いても気持ちが悪くなってきたので、歩く人が多くなっている。
		タクシー運転手	・今の政治がなにをしているかよくわからない。ニュースを見ている、国民のために何をどうしてくれるかわからない。政治家自身が自分の株をあげているようにしか思えない。
	悪くなる	小売店	・雇用の悪化。
		旅館	—
		美容室	・景気が2、3ヶ月では、良くなりそうもないから。
	—	商店街関係者	・景気の良くなる気配が感じられない。
		居酒屋	・国民のがんばり次第。
雇用 関 連	やや良くなる	自治体労働政策担当	・企業の一般求人数が増加している。雇用状況は今後も改善が見込まれる。
	変わらない	職業安定所	・求人状況は、製造業では一部に回復の動きが見られるが、サービス業関連では減少しており、全体として微増にとどまっている。
		労働金庫	・良くなる材料が見当たらない。
		人材派遣会社	・経済対策の効果で、一部持ち直しの感が見られるも、地域経済は回復にほど遠いと思われる。雇用情勢は最悪期を脱したにすぎない。
		労働相談所	・国や行政の予算成立待ち……何らかの変化を期待。
	やや悪くなる	学校就職担当	・トヨタのリコール問題で生産計画の縮小があるのではないかと心配している。特に車部品製造メーカーが多いこの地区では特に。
学校就職担当		・トヨタのリコール問題など、景気回復に水をさすようなことが、起き先行きの見通しがたたない。	